

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表・2023年度)

公表:令和 6年 3月 18日

事業所名 辻義塾 南草津教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1			
	2	職員の配置数は適切である	6	1			低学年クラスは過剰配置にするなど、状況に応じて配置数を調整
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5		車椅子のまま入れるトイレや導尿設備がある	教室内に段差があるため、介助にて対応。その他環境設定も都度改善していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1		毎週1回曜日を決めて会議やカンファレンスを実施	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7				保護者から意見があった場合には速やかに検討、可能な限り改善に努めていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	1		今後実施予定
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1		新入職員には特に積極的に研修を促している	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2			アセスメントツールはあるが、さらに活用していきたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2			当日配置のリーダーを中心に話し合いながら活動内容を決定している
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	2		基本プログラムを基に利用者に合わせた活動内容を決定している	集団活動の内容を利用メンバーに合わせて、日々チームで検討しており、より質を高めていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1		長期課題を設定し活動内容を決定している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			教室ごとのリーダーを設定、午前中に打ち合わせや教室の環境整備を行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	5	1	終了後は残業になるため実施できていない状況	終礼後の打ち合わせでなく、共通ツールを使用し随時情報共有をし、翌日朝礼時に振り返りを実施している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	3			指導日誌や共通ツールを使用し記録を取りやすい環境設定を継続していく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	3			ガイドライン総則の理解が曖昧な職員がいるため、事業所内研修を実施していく	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2		できるだけその利用者の担当職員が参加するようにしている	担当だけでなく複数職員の意見を収集してから会議に参加するよう徹底する
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	2		積極的に連携するようをお願いしているが、連携・共有できるかどうかは学校の方針による	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	1		新入生の受け入れ時には、入所前の3月に保育園に訪問している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2			南草津教室は小・中学生が対象の為、学校卒業後の情報提供の機会はないが、他サービス事業所との情報提供や共有は実施している
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	3	児童館近くの公園を利用する時に一緒に遊ぶ機会がある	児童クラブや児童館との連携は難しいため、事業所内イベントへの利用者兄弟の参加など、別の形で交流機会を作っていきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1		送迎時や公式LINEを用いて、こまめに情報を伝えている	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	5	1		ペアトレについては研修に参加するなど職員のスキルアップが必要
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			電話相談、面談など必要に応じて速やかに丁寧に対応するようにしている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	6		多忙な保護者が多く、「保護者会は不要」との声が多い状況の為、現在は開催予定なし。相談があれば県内の保護者会を紹介する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7				ホームページ、保護者専用ホームページ、SNSなど、複数ツールを利用してこまめに情報発信している
	35	個人情報に十分注意している	6	1			職員の個人スマホで写真を撮る機会があるため、会社PCにアップ後すぐに消去するなど、扱いにはより注意を払っていく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	5		安全管理の問題から、不特定多数の人を事業所内に招くことは、今後も予定していない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			避難訓練を定期的にイベントとして実施している
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1		虐待防止研修には毎年複数職員で参加している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2		保護者への説明・同意を徹底していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			些細な内容でも作成するようにしている